

福島県在宅保健師の会「絆」会報

会長就任あいさつ 嵯峨圭子



このたび福島県在宅保健師の会「絆」の会長に選出されました。

あの大震災から四年が経過しましたが、皆様はいかがお過ごしでしょうか。

会員の中には未だ避難生活を送られている方もおられますが、各々の地で在宅保健師として活動されていることに頼もしさを感じます。

我が国の保健、医療情勢も大きく変化してきているなかで、在宅保健師として地域において何ができるのか、何をなすべきなのかと、模索、検討した結果、地域住民（県民）の健康づくりの一助となりますよう「保健師劇団、健康劇」を公演してまいりました。

この健康劇を演じることが、取りも直さず、自分自身のさびついた頭を少しでも柔らかくし、新しい知識を取り入れることに大いに役立っている、と実感しているところです。

今年度は、健康劇を柱としながら研修会等も計画しておりますので、皆様のご参加をお待ちしております。

群馬県在宅保健師「さちの会」視察研修交流会

平成 26 年 10 月 3 日（金）ホテル福島グリーンパレスにて、群馬県在宅保健師「さちの会」（会長赤石はる子様）との交流会を開催いたしました。

「さちの会」では、隔年で実施している視察研修を、26 年度は東日本大震災および原発の事故で避難生活をされている実態を視察のため、当県を訪れ、「絆」の会とも、交流



会をもちました。その一端を報告いたします。「さちの会」の今回視察の主な目的は、群馬県に居住している会員にとっては、テレビや新聞などから得る情報であり、実際、生の声を聴いてみたい、またいつどこで何が起きるかわからない状況の中、保健師として今後の活動を考えるうえでの参考としたい。ということでした。仮設住宅で生活をされている方々へのインタビューも計画されました。当会との交流会では、二時間という短い時間ではありましたが、震災時、会員が自宅近くの避難所で支援活動をしたこと、浜通りの居住町村から避難した体験、当時の地域の状況などを話しました。さらに「絆」としての会の活動、健康劇立ち上げについても話しました。「さちの会」からは、今回の視察研修の感想や、日頃の活動等についてお話があり交流を深めることができました。

平成26年度福島県在宅保健師の会「絆」研修会

平成27年2月28日(土曜日)午前に研修会を開催。

事務局の国保連合会保健師武田晶子主査から

「市町村を取り巻く状況について～KDBシステムとデータヘルス計画から～」

と題して講演をいただきました。パワーポイントを使いわかりやすくお話をいただき大変好評でした。

その一部をご紹介します。

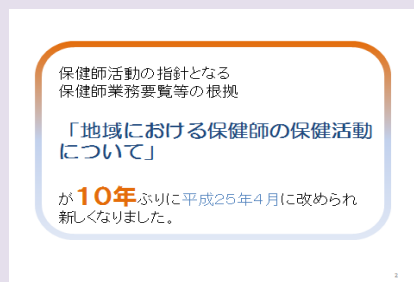


第一声が、『市町村保健師は、厳しい状況のなかで保健活動をしている』、でした。厚労省健康局長名で「地域における保健師の保健活動について」が10年ぶりに平成25年4月に改められ、保健活動の基本的な方向性がだされました。

また、「国民健康保険法に基づく保健事業の実施等に関する指針」「健康保険法に基づく保健事業の実施等に関する指針」が10年ぶりに平成26年3月に一部改められたこと。さらには「高齢者医療確保法に基づく保健事業の実施等に関する指針」が新たに定められた。

これらから予防・健康管理の推進に関する新たな仕組みづくりとして、医療・介護情報の電子化の促進を図り、P(企画・立案)D(事業実施)C(評価)A(改善)に沿った「保健事業実施計画」(データヘルス計画)を策定して、効果的かつ効率的な保健事業を実施して評価を行うことがさだめられました。

「KDBシステム」とは、国保の健診・医療・介護の各種データを個人、市町村、県、全国同規模市町村の単位に突合・集計し、帳票として出力できるシステムの事であるとの説明がありました。以前はこれらのデータを手作業で時間をかけて保健師がコツコツとまとめていたイメージがありますが、今は、あっという間にボタンを数回押すと目の前に帳票が印刷されて出てきます。



研修会講演を聞いてのアンケート結果を紹介いたします。

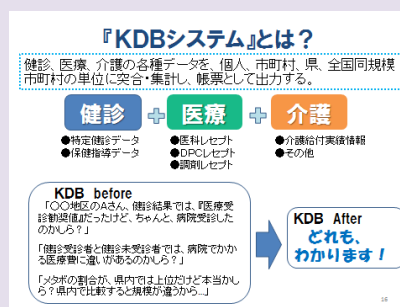
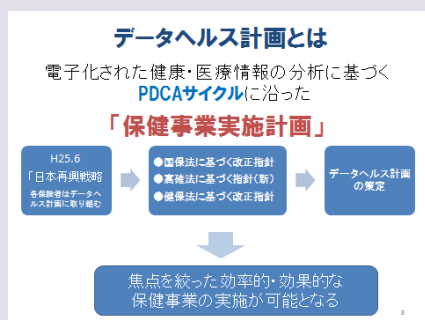
「大変良かった多くの会員に参加してほしかった」

「新しい知識を得ることができて大変うれしい」「市町村保健師の置かれている状況がわかった。

かなり数字を持って評価される時代。先輩としてどんな形で応援できるか考えていきたい。」

「レセプトの見方、考え方の動向がわった。」「時代の流れを感じた研修会でした。」

などの感想が出されました。



平成 26 年度特定健診等に関する在宅保健師等研修会

平成 26 年 12 月 4 日～5 日青森市にて

東北地方国保協議会主催による「特定健診等に関する在宅保健師等研修会」に出席しましたので報告いたします。
12 月 4 日は、講演 3 題が印象に残りましたがその一つについて報告をいたします。

「健やか力を高めよう～健康教養向上に向けての実践的取り組みと方法～」と題し青森県薬剤師会の川村仁氏の講演でした。

青森県は平均寿命・健康寿命とも日本一短命県である。その理由は全国ワースト1の疾病が多い、肥満者（児）が多い、喫煙率・飲酒率が高いなどでした。

このことは、東北各県に当てはまるところがあると思いました。

また講師が「ヘルスリテラシー」について説明され、知識があっても実践することがなければ健やか力は高まらないという言葉に、考えさせられました。自分の事に置き換え、在宅保健師としての役割にもつながる印象的なお話でした。

* ヘルスリテラシー（健やか力）とは、日頃から健康や医療に関する正しい知識や情報を持ち、それらを適切に利用し、活用する力の事 Literacy 活用能力・知識能力・応用力・健康教養+意識（荒井 恭子）

平成 26 年度都道府県在宅保健師等全国連絡会

平成 27 年 1 月 30 日全国町村会館にて

平成 27 年 1 月 30 日（金）全国町村会館（東京都）において、全国から 77 名の参加者があり開催されました。
この会は、国保中央会主催です。国保中央会柴田理事長、都道府県在宅保健師等会全国 連絡会会長の和歌山県在宅保健師の会 藤社（とうしゃ）会長の挨拶で始まりました。

全国 40 都府県で在宅保健師等会が組織されており、当日は 38 府県からの出席者がありました。この連絡会は、最新の国の動きや、話題になっていることなどの情報提供および講演が組まれており、さらには情報交換（グループ討議）が行われる場でありました。

「社会保障制度に関する国の動き」と題して説明がありました。「国保制度改革」や「データヘルスの推進」さらには「介護保険制度の改正」についての最新情報などの説明があり、2 月に当在宅保健師会で実施した研修会（市町村を取り巻く状況について～KDB システムとデータヘルス計画から～）にもつながる内容でした。（データを活用した予防・健康づくりの充実等）

全国の方との情報交換ができる唯一の機会でもあります。それぞれの地域の実情や、抱えている悩みは会員の高齢化、新会員が増えないなど共通するところがありました。しかし、生き生きと活動しているという報告もあり、自分の県での活動にヒントをいただき、明日からの活動につながる場でもありました。（事務局）

平成 26 年度福島県在宅保健師の会「絆」総会

平成 27 年 2 月 28 日 A O Z にて

事業について

健康劇を中心に活動することで了解が得られました。

「保健師劇団」の PR も機会をとらえて実施することになりました。

役員改選

今年度は役員改選があり、新会長に浜通りから嵯峨圭子さんが選出されました。

保健師劇団を活用ください

ふくしまは元気な県民と、ふくしまで福島県在宅保健師の会「絆」では、生活習慣病予防のための「健康劇」と「劇団」をセットとして、要請があれば出向いております。

今ところ 「高血圧症」・「もう受けた？ 特定健診」をテーマに公演しております。住民の皆様への ポピュレーション アプローチや各種会合（保健協力員さん等研修会）の 前座 などにご活用ください。時間は、15～20 分程度です。

申し込み・問い合わせ は下記担当へお電話で。

（国保連合会 事業課 保健事業係 保健事業係）

費用は掛かりません。 お気軽に！



福島県国民健康保険連合会 国保会館
〒960-8043 福島市中町3番7号 TEL 024-523-2754
事業課 保健事業係 FAX 024-523-2704
e-mail: jigyuu@fukushima-kokuhp.jp

よろしくお願いします！

平成 27 年度からの新役員

会長 嵯峨圭子(浜通り)
副会長 七宮ひろみ(県中・県南)
幹事 丹治洋子(県北)
幹事 星なか子(会津)
幹事 藤田信子(会津)
幹事 外山弘子(浜通り)
幹事 保坂真理光(浜通り)
幹事 菅野クニ(浜通り)
幹事 阿部幸子(浜通り)
常任幹事丹野由美子(国保連合会)



参加者で記念撮影！

お知らせ



平成 27 年 5 月 19 日(火)、27 年度第 1 回目の役員会が開催され 前荒井恭子会長は役員全員一致で「顧問」に推挙され、会則に位置づけられました。平成 17 年 4 月から 5 期という長い期間会長を務めていただきました。本当にお疲れ様でした。現在「シナリオ検討委員」を引き受けていただいております。会員としてもご活躍いただいております。

会員募集中

福島県在宅保健師の会「絆」

会員の皆様のお知り合いや、お友達等会員にお誘いくださいませ。後輩の保健師はそれぞれの立場で地域住民のために奔走しております。健康づくりに経験を活かしていただけませんか。健康劇にも挑戦しませんか？待っております。

研修会(無料で受講できます)・市町村保健事業の支援(貴女の力が必要です)・会報(お手元へ)

お申し込み
問い合わせ先

福島県国民健康保険団体連合会事業振興課保健事業課係

所在地: 〒960-8043 福島市中町3-7 国保会館内

TEL024-523-2754 FAX024-523-2704 Eメール:jigyoku@fukushima-kokuho.jp

編集後記

春、桜前線の速さに戸惑い、梅雨もどこかへと思っていたら例年より遅くやってきました。夏、連日の猛暑日。気が付くとカレンダーも8月、一年が早いですね。震災から4年が経過。あの時の揺れの恐怖感や水やガソリンなど不便だった日常は忘れかけています。『仮設住宅』『復興』などの言葉は毎日のニュースから消えない日々です。何事もなかったかの如く過ごしていますが、平凡な日常が大切とつくづく思うこのごろです。(Y T)

福島県在宅保健師の会「絆」会報 第15号

発行日:平成27年8月

事務局:福島県国民健康保険団体連合会
事業振興課保健事業係

TEL024-523-2754 FAX024-523-2704

Eメール:jigyoku@fukushima-kokuho.jp